

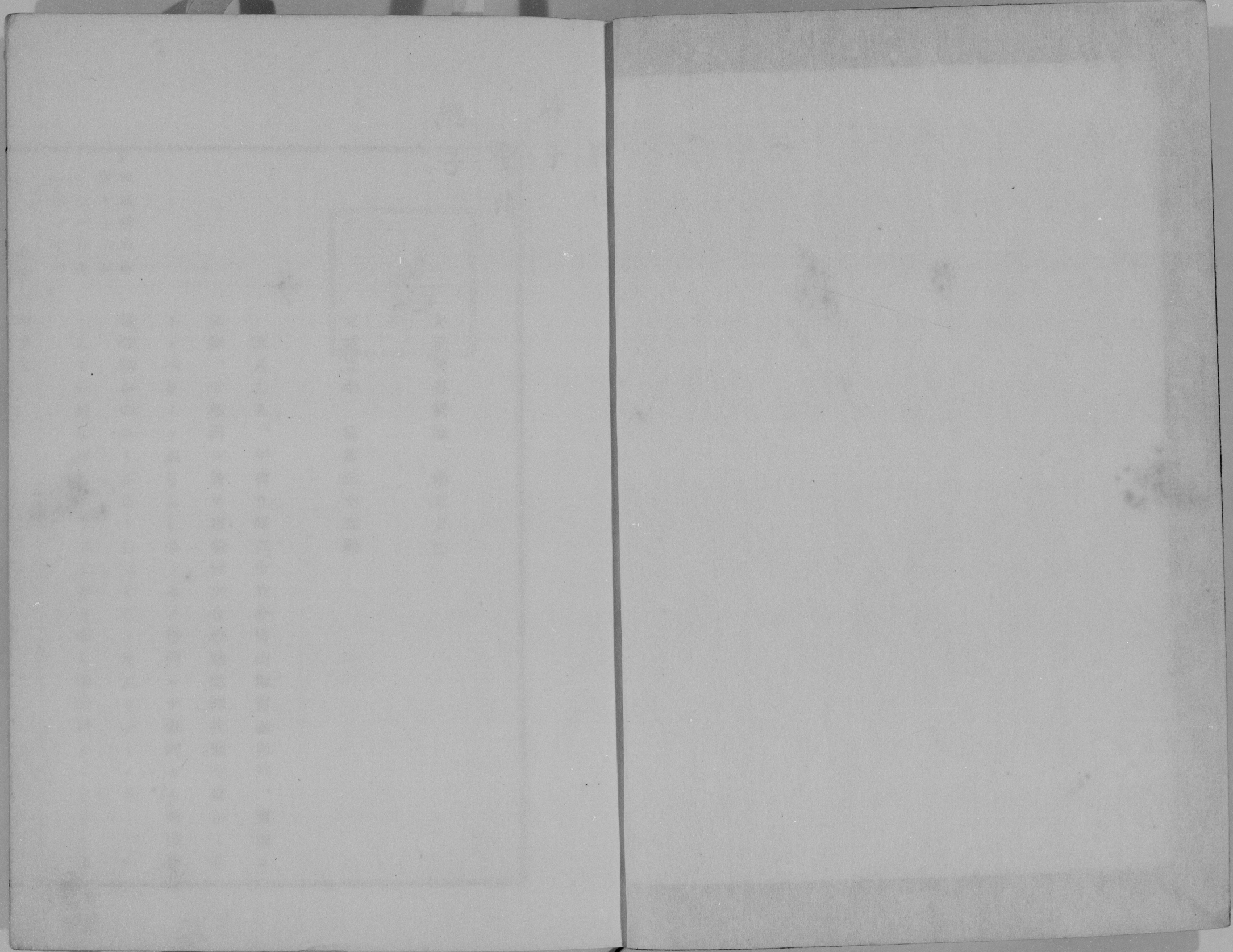
3204 337

大正天皇實錄 卷五十二

圖書寮	
冊號	64047
冊數	97
函號	秘 4

7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9

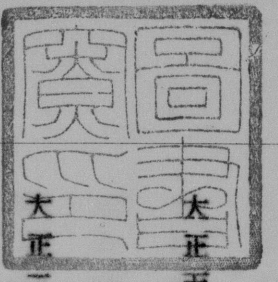
3204 338



11 25 11

11 25 11

11 25 11



大正天皇實錄 卷五十二  
大正二年 實算三十五歲

米國前司法  
卿ういつか  
しやむ及  
どびーぼで

五月二日、午前九時三十五分青山離宮御出門、宮城ニ  
出御、千種園ニ於テ亞米利加合衆國臨時代理大使ありさ  
し・ベリー・ぶらんしあゝるノ帶同シテ參内セル同國前  
司法卿おのれいぶる・じょーじ・だぶりゆー・ういつか  
しやむ並ビニはーがぁーど大學名譽教授どくとる・ふ

大正二年五月

い一名譽  
授御引見

らんしす。くりーんうつど。びーぼでいーヲ御引見、午  
後零時十分青山離宮ニ遷御アラセラル。侍從職日記・侍  
從武官府日記・侍  
見録・官報

是ノ日、朝鮮ヨリ上京セル伯爵李完用ニ思召ヲ以テ葡  
萄酒壹打ヲ賜フ。恩賜

七日、午前九時青山離宮御出門、宮城ニ出御、表御座  
所ニ於テ内閣總理大臣伯爵山本權兵衛・陸軍大臣男爵木  
越安綱ニ、千種閣ニ於テ佛蘭西國ヨリ歸朝セル海軍大尉  
山縣武夫ニ謁ヲ賜ヒ、午後零時十五分青山離宮ニ遷御ア  
ラセラル。侍從職日記・侍從武官府  
見録・官報

井上大使等  
ニ陪食ヲ賜  
フ

八日、午前九時三十五分青山離宮御出門、宮城ニ出御、  
千種閣ニ於テ任地伯刺西爾國ニ赴ク特命全權公使畑良太  
郎・露西亞國ニ赴ク陸軍砲兵少佐坂部十寸穂・佛蘭西領  
印度支那ニ赴ク陸軍歩兵少佐松井石根ニ、表御座所ニ於  
テ任地英吉利國ニ赴ク特命全權大使井上勝之助ニ謁ヲ賜  
フ。正午貞愛親王・載仁親王ヲ召シ、竹間ニ於テ午餐ノ  
御催アリ、宮内大臣伯爵渡邊千秋・外務大臣男爵牧野伸  
顯・井上特命全權大使・式部長官伯爵戸田氏共・侍從武  
官長男爵中村覺・侍從長公爵鷹司禮通・帝室會計寮查局  
長官齋藤桃太郎・畑特命全權公使等ニ陪食ヲ賜ヒ、一時

五十五分青山離宮ニ遷御アラセラル。侍從職日記・侍從  
日記・拜謁參  
拜錄・官報

十四日、午前九時五分青山離宮御出門、宮城ニ出御、  
表御座所ニ於テ内務大臣原敬・海軍大臣男爵齋藤實ニ、  
千種間ニ於テ海外ニ渡航スル判事磯谷幸次郎以下四名並  
ビニ高等學校長會議ニ參列セル第一高等學校長瀬戸虎記  
以下各高等學校長八名ニ謁ヲ賜ヒ、午後零時十五分青山  
離宮ニ遷御アラセラル。侍從職日記・侍從武官府日記・  
典侍日記・拜謁參拜錄・官報  
十五日、京都市ニ金壹萬五千圓ヲ賜フ。蓋シ京都御所  
給水ニ關シ水源地上ノ市有地ヲ永久ニ使用シ、且ツ水

京都市ニ賜  
金

圖書寮

南極探檢後  
援會ニ補助  
金ヲ賜フ

帝國軍人後  
援會ニ賜金

源卿簡選轉ニ要スル電力ヲ供給セシムルヲ以テナリ。賜恩  
録

是ノ日、南極探檢後援會ニ補助金貳千五百圓ヲ賜フ。  
蓋シ明治四十三年十一月二十九日陸軍輜重兵中尉白瀬  
等海兩丸ニ乘ジテ南極探檢ノ壯途ニ上リ、難航ノ末極地  
ノ一部ニ到達シ、探檢ノ目的ヲ畢リテ是ノ歲歸朝セルヲ  
以テナリ。賜恩  
録

十六日、帝國軍人後援會ニ金壹萬圓ヲ賜フ。同會ハ明  
治二十九年創立セラレ、軍人遺族救護會ト稱シ、專ラ  
軍人遺族ノ救護ヲ目的トセシガ、同三十九年帝國軍人後

皇族 差遣

授會ト改メ、大ニ會務ヲ刷新シテ、遺族救護ノ外、廢兵ノ救助竝ビニ現役兵家族ノ救護ヲ目的トシ、軍務從事者ヲシテ平戰兩時俱ニ專心職務ニ勵精スルヲ得セシメ、創立以來成績顯著ナルヲ以テナリ。恩賜

十七日、商船學校ニ於テ卒業證書授與式ヲ舉行スルニヨリ博恭王ヲ遣シ、優等生ニ賞ヲ賜フ。此ノ後恒例卒業式・修業式其ノ他ニ皇族ヲ遣サルルコト略々左表ノ如シ

侍從職日記・侍從武官府日誌・皇親錄・官報

月 日	差遣皇族	差遣先
七月十日	博恭王	東京帝國大學卒業證書授與式
十一月一日	依仁親王	日本觀鳥俱樂部秋季競馬會

不豫

十九日、御遠和ニヨリ陸軍經理學校卒業式ニ行幸アラセラルベキヲ止メテ御靜養アリ、翌二十日ヨリ御假床ニ就カセラレシガ、遂ニ肺炎ニ罹ラセ給ヒ、二旬餘ヲ經テ六月十五日ニ至リ平癒アラセラル。其ノ間、亞米利加合

同 十六日 同	東京觀鳥俱樂部秋季競馬會
同 廿八日 同	海軍工機學校卒業證書授與式
同 廿九日 博恭王	海軍砲術學校及海軍水雷學校卒業證書授與式
十二月一日 載仁親王	三菱造船所軍艦修島進水式
同 十四日 貞愛親王	川崎造船所軍艦榛名進水式
同 十五日 博恭王	海軍機關學校卒業證書授與式
同 十九日 同	海軍兵學校卒業證書授與式

英國じよー  
じ五世皇帝

衆國大統領うつどろー・ういるそん・英吉利國皇帝じよー  
 じ第五世・獨逸國皇帝ういるへるむ第二世・同國皇族  
 はいんりっひ親王ヨリ御見舞ノ電報ヲ寄セタルヲ以テ、  
 夫ヨ御答禮ノ電報ヲ發セラレタリ。猶ホ行幸ノ御豫定タ  
 リシ二十二日ニハ海軍大學校・海軍軍醫學校・海軍經理  
 學校ニ依仁親王ヲ、二十六日ニハ陸軍士官學校ニ貞愛親  
 王ヲ、二十九日ニハ陸軍中央幼年學校ニ恒久王ヲ遣シ、  
 卒業證書授與式ニ臨マシメ、優等生ニ賞ヲ賜ヘリ。侍從  
職日  
記・侍從武官府日誌・典侍日  
記・皇親錄・拜診錄・官報  
 六月三日、英吉利國皇帝じよーじ第五世ノ誕辰ニヨリ

圖書寮

ノ誕辰ヲ賀  
シ賜フ

有馬紹子ズ薨

勅令百三十  
九件ヲ公布  
施行セシム

祝賀ノ電報ヲ發送アラセラレ、且ツ式部長官伯爵戸田氏  
 共ヲ勅使トシテ同國大使館ニ遣シ、慶意ヲ表セシメラル  
 爾後、恒例タリ。外交慶弔錄・  
官報・儀式錄  
 十一日、故從三位有馬賴成妻紹子薨セルニヨリ祭葬料  
 ヲ賜フ。紹子ハ紹仁親王ノ女ナリ。恩賜  
錄  
 十三日、内閣所屬職員官制中改正ノ件、印刷局官制中  
 改正ノ件、賞勳局官制中改正ノ件、明治三十九年勅令第  
 三十二號中改正ノ件、法制局官制中改正ノ件、國勢調査  
 準備委員會官制廢止ノ件、拓殖局官制廢止ノ件、鐵道院  
 官制中改正ノ件、朝鮮總督府官制中改正ノ件、臺灣總督

英吉利  
第五世皇帝

衆國大統領うつどろー・ういるそん・英吉利國皇帝じよ  
 ーじ第五世・獨逸國皇帝ういるへるむ第二世・同國皇族  
 はいんりつひ親王ヨリ御見舞ノ電報ヲ寄セタルヲ以テ、  
 夫ノ御答禮ノ電報ヲ發セラレタリ。猶ホ行幸ノ御豫定タ  
 リシ二十二日ニハ海軍大學校・海軍軍醫學校・海軍經理  
 學校ニ依仁親王ヲ、二十六日ニハ陸軍士官學校ニ貞愛親  
 王ヲ、二十九日ニハ陸軍中央幼年學校ニ恒久王ヲ遣シ、  
 卒業證書授與式ニ臨マシメ、優等生ニ賞ヲ賜ヘリ。  
侍從  
職日  
 記・侍從武官府日誌・典侍日  
 記・皇親錄・拜診錄・官報

六月三日、英吉利國皇帝じよーじ第五世ノ誕辰ニヨリ

圖書寮

ノ誕辰ヲ賀  
シ賜フ

有馬紹子ズ

勅令百三十  
九件ヲ公布  
施行セシム

祝賀ノ電報ヲ發送アラセラレ、且ツ式部長官伯爵戸田氏  
 共ヲ勅使トシテ同國大使館ニ遣シ、慶意ヲ表セシメラル  
 爾後、恒例タリ。  
外交廳弔錄・  
官報・儀式錄  
 十一日、故從三位有馬賴成妻紹子ズニヨリ祭樂料  
 ヲ賜フ。紹子ハ紹仁親王ノ女ナリ。  
恩賜  
錄  
 十三日、内閣所屬職員官制中改正ノ件、印刷局官制中  
 改正ノ件、賞勳局官制中改正ノ件、明治三十九年勅令第  
 三十二號中改正ノ件、法制局官制中改正ノ件、國勢調査  
 準備委員會官制廢止ノ件、拓殖局官制廢止ノ件、鐵道監  
 官制中改正ノ件、朝鮮總督府官制中改正ノ件、臺灣總督



府官制中改正ノ件、臺灣總督府法院職員官等俸級及定員令中改正ノ件、臺灣總督府鐵道部官制中改正ノ件、臨時臺灣總督府工事部官制中改正ノ件、臺灣總督府專賣局官制中改正ノ件、臺灣總督府稅關官制中改正ノ件、臺灣總督府醫院官制中改正ノ件、臺灣總督府郵便局官制中改正ノ件、臺灣總督府監獄官制中改正ノ件、臺灣總督府作業所官制中改正ノ件、臺灣總督府阿里山作業所官制中改正ノ件、臺灣總督府地方官官制中改正ノ件、明治四十二年勅令第二百九十一號中改正ノ件、關東都督府官制中改正ノ件、樺太廳官制中改正ノ件、大正二年法律第十二號ノ

休職給ニ關スル件、會計検査院事務章程中改正ノ件、明治四十三年勅令第一百三號中改正ノ件、行政裁判所令、明治二十三年勅令第一百一號中改正ノ件、貴族院事務局官制中改正ノ件、衆議院事務局官制中改正ノ件、樞密院官制中改正ノ件、明治二十六年勅令第二百一十一號中改正ノ件、外務省官制中改正ノ件、在外公館職員定員令中改正ノ件、商務官官制等廢止ノ件、內務省官制中改正ノ件、明治四十四年勅令第九十七號改正ノ件、明治二十六年勅令第二百二十八號廢止ノ件、明治三十一年勅令第二百六十八號廢止ノ件、防疫職員官制中改正ノ件、衛生試驗所官

制中改正ノ件、古社寺保存會規則中改正ノ件、警視廳官制改正ノ件、北海道廳官制改正ノ件、地方官官制改正ノ件、明治四十年勅令第九十九號中改正ノ件、大藏省官制中改正ノ件、明治三十九年勅令第八十七號中改正ノ件、明治四十二年勅令第二百六號中改正ノ件、造幣局官制中改正ノ件、專賣局官制中改正ノ件、稅關官制中改正ノ件、稅務監督局官制中改正ノ件、稅務署官制中改正ノ件、鹽造試驗所官制中改正ノ件、大藏省ニ臨時職員增置ノ件、明治四十年勅令第二百五十九號及ビ明治四十一年勅令第一百十四號廢止ノ件、臨時國債整理委員會規則中改正ノ件、

陸軍省官制中改正ノ件、軍馬補充部條例中改正ノ件、馬政局官制中改正ノ件、海軍省官制中改正ノ件、司法省官制中改正ノ件、明治四十一年勅令第二百八十三號中改正ノ件、判事檢事官等俸級令中改正ノ件、明治四十三年勅令第五十八號中改正ノ件、文部省官制中改正ノ件、明治四十年勅令第二百十五號中改正ノ件、維新史料編纂會官制中改正ノ件、教育調查會官制、高等教育會議規則廢止ノ件、國語調查委員會官制廢止ノ件、文藝委員會官制廢止ノ件、通俗教育調查委員會官制廢止ノ件、東北帝國大學官制中改正ノ件、九州帝國大學官制中改正ノ件、文部

省直轄諸學校職員定員令中改正ノ件、中央氣象臺官制中改正ノ件、農商務省官制中改正ノ件、明治四十一年勅令第二百二十八號中改正ノ件、明治三十九年勅令第五十八號中改正ノ件、明治四十四年勅令第百號中改正ノ件、明治四十三年勅令第七十七號中改正ノ件、明治三十八年勅令第七十六號中改正ノ件、明治三十九年勅令第五十號中改正ノ件、製鐵所官制中改正ノ件、明治三十九年勅令第五號廢止ノ件、特許局官制中改正ノ件、林區署官制中改正ノ件、明治三十九年勅令第五十九號廢止ノ件、農事試驗場官制中改正ノ件、蠶業講習所官制中改正ノ件、原蠶

種製造所官制中改正ノ件、生絲檢查所官制中改正ノ件、工業試驗所官制中改正ノ件、花蔴檢查所官制中改正ノ件、鑛山監督署官制中改正ノ件、水產講習所官制中改正ノ件、生產調查會官制廢止ノ件、林野整理審查會規則廢止ノ件、遞信省官制中改正ノ件、臨時發電水力調查局官制廢止ノ件、爲替貯金局官制、地方遞信官署官制、明治三十一年勅令第二百六號中改正ノ件、航路標識管理所官制中改正ノ件、商船學校官制中改正ノ件、高等官官等俸給令中改正ノ件、判任官俸給令中改正ノ件、朝鮮總督府判事及朝鮮總督府檢事官等給與令中改正ノ件、在外公館費用條

例中改正ノ件、明治四十三年勅令第百六十八號改正ノ件、  
 明治四十年勅令第百六十四號中改正ノ件、明治三十五年  
 勅令第百二十六號中改正ノ件、明治三十六年勅令第四十  
 八號中改正ノ件、明治四十二年勅令第百五十一號中改正  
 ノ件、明治四十二年勅令第百十五號中改正ノ件、明治  
 四十二年勅令第百十六號中改正ノ件、通信官署經費渡  
 切規則中改正ノ件、明治二十九年勅令第百八十二號中改  
 正ノ件、明治三十七年勅令第四十二號中改正ノ件、商務  
 官特別任用令廢止ノ件、警視廳職員特別任用令、道廳府  
 縣警察部長及ビ府縣港務部長ノ特別任用ニ關スル件、明

治四十年勅令第二百七十四號中改正ノ件、專賣局職員特  
 別任用令中改正ノ件、稅務監督局及ビ稅務署職員特別任  
 用令中改正ノ件、陸軍錄事任用令中改正ノ件、文部省督  
 學官任用ノ件、明治三十年勅令第三百四十五號廢止ノ件、  
 文部省直轄諸學校長任用ノ件、明治四十年勅令第二百十  
 八號廢止ノ件、明治四十年勅令第二百七十五號中改正ノ  
 件、電氣事務官及ビ臨時發電水力調查局事務官特別任用  
 令廢止ノ件、爲替貯金局及ビ地方遞信官署職員特別任用  
 令、海員審判所職員定員及ビ任用令中改正ノ件、警察官  
 及ビ消防官服中改正ノ件、並ビニ稅關官吏及ビ水夫服制

行政整理ヲ行ハシム

中改正ノ件ヲ裁可アラセラレ之ヲ公布シ即日施行セシム。尋イデ文官任用令改正ノ件及ビ任用分限又ハ官等ノ初級陞叙ノ規定ヲ適用セザル文官ニ關スル件ヲ裁可シ給ヒ八月一日之ヲ公布施行セシメラル。

是ニ於テ前年ヨリ懸案タリシ行政財政ノ大整理ヲ實現セラルルニ至レリ。抑、行政財政ノ整理ニ關シテハ、既ニ明治ノ末年、内閣總理大臣侯爵西園寺公望計ル處アリシガ、海軍擴張・二箇師團増設等ノ要求ニヨリテ遂ニ之ヲ果シ得ズ。偶々伯爵山本權兵衛、公爵桂太郎ノ後ヲ享ケテ内閣總理大臣ニ任ゼラルルヤ、先キニ帝國議會ニ於テ

圖書寮

之ガ斷行ヲ言明シ、西園寺案ヲ參考シ著々成案ヲ作り、頃日御裁可ヲ仰ギ、是ノ日之ヲ發表スルニ至レルナリ。今山本内閣ノ政策ヲ窺フニ、整理ノ目的ハ事務ヲ簡捷タラシメ、經費ヲ節約シ、冗員ノ淘汰ヲ行フニ在リ。サレバ或ハ局課ヲ廢合シ官吏ノ數ヲ減ジ、執務ノ系統ヲ正サントシテ幾多ノ法律並ビニ勅令ノ改廢ヲ敢行セリ。其ノ結果、官吏ノ定員ヲ減小スル事六千四百二十八名<sup>名</sup>餘ニ達シ、俸給額ヲ減ゼシムルコト四百萬圓ニ上リ、且ツ俸給以外ノ整理節減額五千八百八萬圓ヲ算シ、各事業等ノ繰延ヲ合計スレバ總額七千三十餘萬圓ニ達スト稱セラル。

而シテ税制ニ就キテモ亦改廢整理スル處辦カラズ。次ニ注目セラルベキハ文官任用令ノ改正ニシテ、其ノ目的ハ人材登用ノ途ヲ開クニアリシガ如シ。例ヘバ陸海軍大臣及ビ次官ヲ現役ニ限定セズ、豫備・後備編入者ニ擴張セシメタルガ如キ、或ハ自由任用及ビ特別任用ノ範圍ヲ擴張シ、各省次官・内閣書記官長・法制局長官・警視總監・貴族院書記官長・衆議院書記官長・警保局長及ビ各省勅任參事官ヲ任用令ノ外タラシメタルガ如キ、或ハ勅任文官ハ文官高等試験ニ合格セル資格ヲ有シ、一年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者、又ハ奏任文官トシテ一年以上高

圖書寮

等官三等ノ職ニ在リタル者ヨリ之ヲ任用スルコトトシ、文官高等試験ニ合格ノ資格ヲ有セズ二年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者、又ハ奏任文官トシテ一年以上高等官三等ノ職ニ在リタル者ハ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ勅任文官ニ任用スルコトヲ得シメタルガ如キ、皆其ノ一端タルヲ知ルベシ。猶ホ樞密院官制ニ就キテモ同様改正ヲ見ルト雖モ、他ノモノニ之ヲ比スレバ、其ノ趣ノヤヤ異ルヲ知ルベシ。即チ樞密顧問官ノ定員二十八名<sup>名</sup>ヲ二十四名<sup>名</sup>ニ減員ノ旨ヲ明ニスト雖モ、本令施行ノ際現ニ樞密顧問官ノ職ニ在ル者ハ、其ノ定員ノ改正ニ拘ラズ在任

御平癒ニ付  
賜物

トセリ。是蓋シ今回ノ行政整理ニ當リ、樞密院議長公爵  
山縣有朋ハ山本内閣總理大臣ノ施政ニ對シ嫌ラザル所ア  
リ。行政財政大整理案ガ樞密顧問ノ諮詢トナルニ當リ、  
徒ニ審議ノ嚴ナルモノアリシカバ、山本内閣總理大臣ハ  
私ニ若シ樞密院ニシテ政策ノ斷行ヲ妄ニ妨グルニ於テハ、  
樞密顧問官全員ノ免職ヲ敢テ奏請セント欲シ、既ニ其ノ  
手續ヲサヘ準備セント云ハル。亦以テ當時同案遂行ノ頗  
ル至難タリシヲ推察スルニ餘リアリ。官報・公爵  
山縣有朋傳  
十五日、御撤床ニヨリ貞愛親王ニ、御紋附銀花瓶壹對  
ヲ、宮内大臣伯爵渡邊千秋・宮内次官河村金五郎ニ御紋

圖書寮

獨逸皇帝ノ  
即位二十五

大正二年六月

二三

附手箱各一壹個ヲ賜ヒ、御病床ニ奉仕セル侍醫頭西郷吉  
義以下侍醫寮職員及ヒ侍從長公爵藤司源通以下侍從職職  
員・侍從武官長男爵中村覺以下侍從武官及ヒ皇后宮職御  
用掛柳原愛子以下女官等ニ物ヲ賜フコト差アリ。又御平  
癒ヲ賀シ奉リテ參内セル皇太子裕仁親王・皇子雍仁親王・  
宣仁親王竝ビニ鳩彦王・恒久王・稔彦王・恒憲王・博忠  
王・武彦王・王世子李垠及ヒ元帥伯爵奧保鞏・内閣總理  
大臣伯爵山本權兵衛・公爵九條道實・侯爵中山孝麿ニ賜  
ヲ賜フ。侍從職日記・侍從武官府  
日誌・典侍日記・恩賜錄

十六日、獨逸國皇帝ウいるへるむ第二世即位二十五年

年々賀シ賜

記念式舉行ニヨリ、祝賀ノ電報ヲ發送アラセラル。外交  
官報・

吉野宮本殿  
修理ニ付キ  
賜金

十七日、官幣大社吉野宮本殿修理ニヨリ、金貳百五拾  
圓ヲ賜フ。恩賜

通商航海條  
約

是ノ日、曩ニ帝國ト埃地利匈牙利國トノ間ニ存在スル  
友好親善ノ關係ヲ鞏固ナラシムル爲、今後兩國間ノ通商  
關係ヲ律スベキ條規ヲ明確ニ訂立シ、以テ其ノ目的ヲ達  
スルニ資セシメントシ、維納ニ於テ帝國全權委員埃地利  
匈牙利國駐劄特命全權大使秋月左都夫ヲシテ同國全權委  
員宮内外務大臣伯爵れおぼしむると。べるひとると。ど。

圖書寮

うんがるしつ等ト通商航海條約ヲ協定セシメ給ヒシガ、  
去ル大正元年十月二十八日全權委員等署名調印スルニ至  
リ、尋イデ樞密顧問ノ諮詢ヲ經タルヲ以テ之ヲ批准アラ  
セラレ、是ノ日其ノ公布アリ。本條約ハ二十三條ヨリ成  
リ、之ヲ明治四十四年八月三日ヲ以テ終了セシ舊條約ニ  
比ブレバ、舊條約ニ於テ規定ナカリシ土地所有權ニ關シ、  
不動産ノ取得占有ニ就キテハ、一般ニ各自内國法ガ外國  
人ニ認ムル範圍内ニ於テ、最惠國待遇ヲ保障スルコトヲ  
定メ、永代借地權ニ關スル舊規定ヲ削除シ、更ニ沿岸貿  
易ニ關スル舊條項ガ片務的ナリシヲ改メテ相互的トナシ



一般最惠國約款ニヨリテ最惠國待遇ヲ保障セシメ、旅商  
 及ビ其ノ携帶スル見本ニ關スル事項、商事會社ノ互認、  
 國境貿易及ビ漁産ニ關スル除外例等舊條約ニ存セザル規  
 定ヲ律シ、良心ノ自由及ビ禮拜ノ權利ニ關スル等時勢ニ  
 適應セザル條項ハ之ヲ削除セリ。斯クテ兩國間ニ於テハ  
 通商・關稅並ビニ航海ニ關シ、互ニ最惠國待遇ヲ保障セ  
 ラルルニ至レリ。猶ホ本條約公布ノ後、伊太利國及ビ和  
 蘭國トモ通商航海條約ヲ締結セラレシカド略々本條約ニ  
 類スルヲ以テ茲ニ言及セズ。其ノ他是ノ歲公布セラレタ  
 ル條約ニハ、幾ニ亞米利加合衆國トノ間ニ、小包郵便條

御保養トシ  
ヲ御輦地

約ノ修正條約アリ、露西亞帝國トノ間ニハ、郵便爲替交  
 換約定アリ、又六月三十日ニハ國際無線電信條約ヲ批准  
 アラセラレ之ガ公布ヲ見タリ。報官  
 十八日、御保養ノ爲メ葉山ニ轉地アラセラル、即チ午  
 前九時皇后ト俱ニ青山離宮御出門、御車寄ニ於テ皇太子  
 裕仁親王並ビニ皇子雍仁親王・宣仁親王ノ奉送ヲ、又新  
 橋停車場ニ於テ皇族・文武官等ノ奉送ヲ受けサセラレ、  
 同三十分御發車、逗子停車場ニ御下車、十一時三十五分  
 葉山御用邸ニ著御アラセラル。爾後、駐蹕月餘ニ及ビ、  
 七月二十五日正午宮城ニ還幸アラセラル。其ノ間ノ御動

御駐蹕中ノ御動靜

靜ヲ拜スルニ、青山離宮ニ於テハ日常政務御繁忙ノ爲、僅々一二時間ヲ御乘馬或ハ御散步等ニ當テサセラレシガ、御用邸ニ於テハ概ネ日々内庭或ハ海岸ヲ御散歩アリ、御晚餐後ト雖モ、時ニハ端舟引揚場附近ニ出御アリ、警備艦ノ探照燈ヲ點ジ、或ハ電燈艦飾ヲ成スヲ觀覽アリ、又二十九日ニハ參邸ノ皇太子裕仁親王ニ謁ヲ賜ヒ、御晝餐ニ陪セシメタル後、皇太子ヲ隨ヘテ内庭ヲ御遊歩等ノコトアリ。時ニハ詩ヲ賦シ給ヒテ御慰アラセラレタルガ如シ。是ノ日モ著御ノ後、

黯淡雲低竟日頽 瀟々梅雨響林間 去年今日猶堪憶

圖書寮

一路薰風入葉山

ノ如キ聖作ヲ試ミ給ヘルヲ始メトシ、駐蹕中即事ノ御製數アリ。一二ヲ左ニ拜スベシ。

駕軍艦巡航相海

蒼海漫々碧瀾平 時駕輪轆自在行 咫尺大島人烟起  
 葉山縹渺翠黛橫 巡航百里晴更好 邂逅佛艦聽笛聲  
 四顧無雲何快瀾 長風吹面氣轉清  
 乘初加勢

萬頃濼々潮方生 乘艇臨風最怡情 呼吸海氣銷炎暑  
 波浪打絃時有聲 諸人相看笑相語 轉覺意氣自縱橫

前者ハ蓋シ七月十八日警備艦筑波ニ乘御シ、洋々タル相模灣内ヲ伊豆大島附近ニ至ルマデ御進航、臨機艦隊運動及ヒ基本教練等ノ諸作業ヲ親覽アリ、海軍ノ發達ニ大御心ヲ注カセ給フ傍ラ、蒼海ノ情ヲ賦シ給ヘルモノノ如ク、又後者ハ七月二十二日よつと初加勢ニ御乘艇、城ヶ島附近ニ出テ給ヘル御時ノモノナルヤニ拜セラル。此ノ時供奉員中ニハ船量ニ惱ム者少カラザリシガ、龍顏變ラセ給ハズ、嚴然タル御言動ニ侍臣皆感激セリ。猶ホ七月二十五日還幸ノ際賦サセ給ヘル聖作アリ、

滯留湘南一月餘 海濱涼氣樂詩書 今日還入九重裡

圖書寮

供奉員

苦熱真如在釜魚 晚來偶坐高樓上 遙對品海想釣漁  
斜陽清風綠樹際 望見點々帆影舒

ト、駐蹕中竝ビニ宮城ノ一夕ノ御動靜ヲモ覗ヒ奉ルベシ。猶ホ駐蹕中供奉ヲ命セラレタル者ハ、宮内大臣伯爵渡邊千秋・侍從武官長男爵中村覺・侍從長公爵鷹司源通・侍醫頭西郷吉義・皇后宮大夫事務取扱皇后宮主事馬場三郎・宮内書記官市來政方・同大木彝雄・同松根豐次郎・同公爵岩倉具張・同男爵小原隆吉・同柳田國男・侍從日野西資博・同原恒太郎・同田内三吉・同高辻宜廣・同伯爵清水谷實英・同男爵澤宣元・同子爵松平慶民・同男爵

楠瀬幸彦ヲ  
陸軍大臣ニ  
任ズ

德川義恕・同子爵松浦靖・同大炊御門家政・同子爵海江  
 田幸吉・同石山基陽・侍從職出仕伯爵坊城俊良・侍從武  
 官關野謙吉・同西養一・同若見虎治・同奥村拓治・侍醫  
 相磯愷・同池邊棟三郎・同片山芳林・同土屋岩保・宮内  
 大臣秘書官近藤久敬・同上野季三郎・内大臣秘書官日高  
 秩父・同落合爲誠・同高橋皞・皇后宮職御用掛柳原愛子・  
 同千種任子・皇后宮權典侍正親町鐘子等ナリ。侍從職日記・侍從  
武官府日誌・典侍日記・幸啓錄・官報・大正天皇御製集稿本・大正天皇臨詔集  
 二十四日、葉山御用邸表御座所ニ於テ親任式ヲ行ハセ  
 ラレ、陸軍中將正四位勳二等功三級楠瀬幸彦ヲ陸軍大臣

圖書寮

宣仁親王ニ  
高松宮ノ稱  
號ヲ賜ヒ、  
威仁親王ニ  
御沙汰アリ

ニ任ジ、陸軍大臣男爵木越安綱ノ本官ヲ免ズ。侍從職日記・幸啓  
錄・官報・儀式錄

七月二日、楠公訣兒之所修興會ニ金壹百圓ヲ賜フ。蓋  
 シ同會ニテ大阪府三島郡島本村字櫻井ナル楠公父子訣別  
 舊蹟地ニ碑石ヲ建設スルヲ以テナリ。恩賜錄  
 六日、第三皇男子宣仁親王ニ高松宮ノ稱號ヲ賜ヒ、舞  
 子ニ病ヲ養ヘル威仁親王ニ左ノ御沙汰ヲ賜フ。  
 卿孿ニ繼嗣ヲ喪ヒ憂念惟フニ切ナラン特ニ宣仁親王  
 ニ高松宮ノ稱號ヲ賜ヒテ祀ニ膺リ後ヲ善クセシメム  
 トス卿其レ心ヲ安セヨ

威仁親王ニ  
内諭ヲ傳宣  
セシム

是ヨリ先、海軍大將大勳位功三級威仁親王病ヲ舞子別邸ニ養フ事年アリ、本年三月ニ至リ病勢漸ク昂進、六月十日再ビ發熱シ、衰弱日ヲ逐ヒテ加ハル。天皇深ク軫念アラセラレ、義ニ侍醫頭西郷吉義及ビ醫師ヲ別邸ニ派シテ診セシメ、又侍從ヲ遣シテ慰問アラセラレ、更ニ裁仁王薨去後、繼嗣ナキヲ深ク憂慮シ給ヒ、去月二十二日宮内大臣伯爵渡邊千秋ニ旨ヲ衝メテ舞子別邸ニ遣シ、祭祀繼承ニ關スル内諭ヲ親王ニ傳宣セシメラレシガ、昨五日全ク危篤ニ陥レルヲ以テナリ。蓋シ高松宮ノ稱號ハ、有栖川宮始祖好仁親王ノ舊稱ナリ。是ノ日、威仁親王病篤

圖書寮

威仁親王薨  
ズ

賜諡・諱贈

キニヨリ重ネテ西郷侍醫頭及ビ侍從子爵松浦靖ヲ舞子別邸ニ急派セシメ、翌七日菊花章頸飾ヲ加授シ、元帥府ニ列シ特ニ元帥ノ稱號ヲ賜フ。十日親王重患ノ態ニテ歸京、尋イデ薨ズ。因リテ五日間ヲ宮中喪トシ、十一日ヨリ三日間竝ビニ葬儀當日廢朝ヲ仰出サレ、其ノ間、歌舞音曲ヲ停止セシム。尋イデ親王生前ノ功勞ヲ思召シ、内帑金五萬圓ヲ賜ヒ、國葬ノ件ヲ裁可公布セシメ、宣仁親王ヲシテ喪主タラシメ、樞密顧問官子爵花房義質ヲ葬儀掛長ト爲シ以下委員ノ任命アリ、十一日弔問使侍從日根野要吉郎ヲ、十五日侍從職幹事男爵米田虎雄ヲ宮邸ニ遣シ、

誅及ヒ賻賜ヲ賜フ。誅ニ曰ク、  
 志ヲ盛時ニ立テ身ヲ海軍ニ委ス英ニ航シテ研鑽辛勤  
 ヲ厭ハス國ノ爲ニ盡瘁屢々殊勳ヲ著ハス道文武ヲ該ホ  
 テ學古今ニ通セリ朕東宮ニ在ルヤ出入輔導能ク其ノ  
 任ヲ竭シ啓沃獎匡善ク朕ノ忱ヲ效ス情猶昆弟ノコト  
 ク誼師父ニ齊シ英邁ノ資德望ノ隆仍冀贊ヲ期セシニ  
 遂ニ溘亡ヲ聞ク痛惜已ムナク軫悼曷ソ勝ヘン茲ニ侍  
 從職幹事正三位勳一等男爵米田虎雄ヲ遣シテ賻弔セ  
 シム

更ニ十六日板前ニ、十七日葬場ニ勅使侍從子爵東園基愛

圖書寮

威仁親王略  
 歴

ヲ遣シテ玉串ヲ供セシム。爾後、五十日祭及ヒ百日祭ニ  
 ハ侍臣ヲ遣シテ代拜セシメ給ヘリ。  
 因ニ親王ハ威仁親王ノ第四男子ナリ。文久二年ヲ以テ  
 生レ、幼稱ヲ彌宮ト云フ。明治十一年明治天皇御養子ト  
 爲リ、威仁親王ノ繼嗣タル勅許ヲ得、同年八月親王宣下  
 アリ、名ヲ威仁ト賜フ。同七年勅旨ヲ以テ海軍兵學寮ニ  
 入學、後、英吉利國東洋艦隊旗艦あいよん・じゅーく號  
 ニ乗組テ海軍術ヲ習練セリ。尋イデ英吉利國ニ學ビ、歸  
 朝後各艦長・常備艦隊司令長官等ノ要職ヲ歴テ累進シ海  
 軍大將ニ任セラレタリ。其ノ間、明治二十七八年及ヒ同

三十七八年大戦ニハ赫々タル勳功ヲ顯シ、功三級金鷄勳章ヲ授ケラル。曾テ歐米各國ヲ巡遊シテ軍事ノ視察ヲ爲シ、傍ラ該地宮廷ノ儀禮ニ通ゼリ。サレバ出デテハ英吉利國皇帝びくとりあ即位六十年式典・獨逸國皇太子ふれでりつく・ういりあむ親王ノ結婚式典ニ何レモ御名代トシテ參列シ、國交上ニ寄與スル所尠カラズ。朝ニ在リテハ明治天皇ノ殊遇厚ク、東宮輔導ヲ委ネラレ、力ヲ之ニ盡セリ。今ヤ親王ノ訃天聽ニ達スルヤ、

多年輔朕盡誠忠 忽驚仙去白雲中 追懷往事偏回首  
 晃山墮溪感不窮 一病深勞先帝念 三歲療養終無功

圖書寮

林董薨メ

大正二年七月

三九

縱令一旦幽明隔 英靈暗輔在碧空

ノ御製ヲ賦シ、震悼アラセラルコト深シ。侍從職日記・侍從武官府

日誌・典侍日記・幸啓錄・威仁親王行實・皇族身分錄・皇親錄・慶弔錄・官報

七日、正午宮中東溜間ニ於テ貞愛親王ヲ臨席セシメ、宮内大臣伯爵渡邊千秋・内務大臣原敬・宮内次官河村金五郎・内務次官水野鍊太郎・警視總監安樂兼道並ビニ地方長官會議ノ爲メ上京セル北海道廳長官中村純九郎以下各地方長官ニ午饗ヲ賜フ。侍從職日記・宣召錄・官報

十日、正三位勳一等伯爵林董病篤キヲ以テ特ニ位一級ヲ進メ從二位ニ敘ス。薨ズルニ及ビ祭桑料ヲ賜ヒ、十三

日葬儀ヲ執行スルニ當リ勅使侍從石山基陽ヲ其ノ邸ニ遣シ、幣帛ヲ賜フ。因ニ董ハ明治四年九月神奈川縣廳ニ出仕以來、諸官ヲ歷任シテ地方長官・外務次官・特命全權大使・國務大臣ニ累進シ、多年重職ニ膺リ功績勲カラザリシヲ以テナリ。恩賜勲官報

二十七日、午後一時三十分御出門、皇后ト俱ニ青山御所ニ行幸、皇太后ニ御對顔、四時三分還御アラセラル。蓋シ去ル二十一日青山離宮ヲ皇太后ノ御所ト定メ、青山御所ト稱セシメ、其ノ日皇太后移御アラセラレシヲ以テナリ。爾後、青山御所ニ皇太后ヲ訪ハセ給フコト屢ミア

明治天皇一周年祭

御告文

大正二年七月

四一

リ。侍從職日記・侍從武官府日誌・皇太后宮職日記・典侍日記・官報

二十九日、樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ地租、地租附加税及ビ段別制ニ關スル法規ヲ皇族所有ノ土地ニ適用スルノ件ヲ裁可アラセラレ、之ヲ公布セシム。官報

三十日、明治天皇一周年祭禮殿ノ儀アリ、午前八時三十分大勳位・親任官・大臣禮遇以下參集本位ニ就キ、依仁親王・博恭王・邦彦王・同妃倪子・守正王・同妃伊都子・成久王・李坳公本位ニ就クヤ、奏樂裡ニ祭官副長以下奠饌ヲ奉仕シ、祭官長公爵九條道實祭詞ヲ奏ス。時ニ天皇御正裝ニテ出御、御拜アリ、親シク左ノ御告文ヲ奏



シ給フ。

長伎

皇考天皇乃大靈乃大前爾白左皇考尊乃神避坐波昨日  
 今日乃心地須禮月日波夢止過往且伎今日波既母久一年乃  
 御祭仕奉留借日止成利是乎以且此大前平親良齋祭留  
 事平聞食志朝廷乃内平始且米仕奉留百官人等天下四方  
 國乃人民爾至留萬彌益々爾守幸波給比立榮志給倍止白  
 須事平聞食止世恐美恐美白須  
 訖リテ入御、次ニ皇后・皇太后御拜アリ、皇族以下諸員  
 拜シ儀終ル。猶ホ山陵ニ於テモ山陵祭アリ、御名代貞愛

圖書寮

御禊ノ儀

親王竝ビニ皇后御名代載仁親王妃智惠子・皇太后御名代  
 依仁親王妃周子ヲ參向セシメ給ヘリ。侍從職日記・侍從  
 武官府日誌・典侍  
日記・儀式錄・祭記録・  
 官報・貞愛親王事蹟  
 三十一日、明治天皇一周年祭後一日御禊ノ儀アリ。午  
 後一時十五分御小直衣ヲ召シ鳳凰間ニ出御アラセラルル  
 ヤ、掌典長岩倉具綱進ミテ天機ヲ候フ。是ニ於テ侍從荒  
 世ノ御服ヲ供ス。次ニ岩倉掌典長ノ奉ル荒世ノ御麻ヲ侍  
 從ヲ經テ供セシメ、訖リテ之ヲ返シ給フ。尋イデ和世ノ  
 具ヲ供セシメラルルコト荒世ノ式ノ如シ。斯クシテ儀畢  
 リ入御アラセラル。夫ヨリ祓所ニ於テ大祓ノ儀ヲ行ハシ

メ給へリ。侍從職日記・典侍日記・儀式錄・祭祀錄・官報

是ノ日、明治天皇一周年祭典既ニ終リシヲ以テ廢職トナレル祭官長公爵九條道實以下祭典奉仕者ニ物ヲ賜フ。

恩賜錄

旬祭

八月一日、旬祭ニヨリ午前九時綾綺殿ニ渡御、御祭服ニ改メサセラレ、賢所・皇靈殿・神殿ニ御拜アリ、同三十五分還御アラセラル。爾後、毎月一日・十一日・二十一日ニ旬祭アリ、賢所・皇靈殿・神殿ニ御拜ノコト今日ノ如シ。侍從職日記・侍從武官府日記・典侍日記・祭祀錄

明治天皇靈代奉遷ノ儀

二日、明治天皇靈代奉遷ノ儀ヲ行ハセラル。午前六時

圖書寮

皇靈殿ニ於テ御親祭

がすり米  
國大使信任  
狀ヲ捧呈ス

皇靈殿ニ奉告ノ儀アリ、同三十分權殿ニ於テ祭典アリ、侍從子爵東園基愛ヲシテ代拜セシメラル。尋イデ御靈代皇靈殿ニ渡御ノ儀アリ、御靈代ヲ御羽車ニ奉遷、御車寄ヨリ進御ニ當リ、表御座所庭上ニ於テ之ヲ奉送アラセラル。既ニシテ渡御ノ儀畢リ、十時皇靈殿ニ出御、親祭ヲ行ハセラル。侍從職日記・侍從武官府日記・典侍日記・儀式錄・祭祀錄・官報

四日、芝離宮ニテ朝鮮ヨリ上京セル李焄公及ビ隨員等ニ午餐ヲ賜フ。侍從職日記・宣台錄

七日、午前十時三十分鳳凰閣ニ出御、亞米利加合衆國特命全權大使じよーじ・ういるきんす・がすりーヲ御引

がすりー米  
國大使ニ陪  
食ヲ賜フ

見、信任狀及ビ前任大使ノ解任狀ヲ受ケサセラル。尋イ  
デ隨伴セル大使館參事官あり。さー・べりー・ぶらんしあ  
ーる・大使館附海軍武官海軍少佐らいまん・あときんそ  
ん・こつてん・同陸軍武官陸軍大尉ひゆばーと・える・  
ういつくもあ・日本語書記官兼譯官ちやーるす・じえ！  
あーねる・三等書記官ふらんく・だんどあー・あーのる  
どヲ引見アラセラレ、後、九月二十三日午後零時三十分  
皇后ト俱ニ豐明殿ニ出御、午餐ヲ御催アリ、貞愛親王・  
戰仁親王・同妃智惠子・依仁親王妃閑子ヲ召シ、がすり  
ー大使夫妻並ビニ内閣總理大臣伯爵山本權兵衛・宮内大

圖書寮

日光ニ行幸

臣伯爵渡邊千秋・外務大臣男爵牧野伸顯・式部長官伯爵  
戸田氏共・侍從武官長内山小二郎・侍從長公爵鷹司熙通・  
皇后宮大夫事務取扱馬場三郎・皇后宮掌侍吉見光子等ニ  
陪食ヲ賜ヘリ。侍從職日記・侍從武官府日誌・謁見録・宣召録・官報  
是ノ日、故一品邦家親王四十年祭及ビ妃景子二十年祭  
ヲ伏見宮邸ニテ執行スルニヨリ、祭料ヲ貞愛親王ニ賜  
フ。貞愛親王事蹟・皇親錄・皇族雜錄・官報  
十八日、暑ヲ日光ニ避ケ給ヒテ皇后ト俱ニ貞愛親王以  
下ヲ隨へ、午前九時五十分御出門、午後二時五十五分日  
光田母澤御用邸ニ著御アラセラル。爾後、駐蹕凡ソ二旬

御動靜

餘ニ及ブ。其ノ間、概ネ午後ヨリ御日課ノ一トシテ一定ノ御運動アリ。屢々馬場内御乗馬ノ外、貞愛親王ヲ始メ侍從武官等ヲ隨ヘ、御料馬近友號ヲ御シ給ヒテ裏見・寂光・羽黒ノ諸瀑ニ遊幸アリ、或ハ玉歩ヲ東京帝國大學理科大學附屬日光植物分園ニ運バセ給ヒ、高山植物ニ御興深ク、時ニハ日扇・葛蒲・梅鉢草等ヲモ採ラセ、之ヲ御用邸ニ持テ歸ラシメテ御慰アリ。又屢々同園ニ命ジテ植物ヲ御取寄セアリ。試ミニ少シク其ノ名稱ヲ列記スレバ左ノ如シ。

玉紫湯花・ツカ・コメツガ・百合根・イチイ・ギン

レウソウ・コゴノウツキ・墓白ヨウラク・紫郭公・フシグロセンオウ・ヤシユウフウロ・ヤマボクチ・オイランソウ・オニウコギ・ヤナキタンボボ・ウラジロイチゴ・イスザンセウ等

以テ植物ノ御採集ニ興セラレタルヲ拜スベシ。

帝都炎暑正鏤金 遠人見山養吟心 離宮朝夕涼味足  
 四顧峰巒白雲深 有時園中試散步 花草色媚綠樹陰  
 曲池水清魚亦樂 徘徊不知夕日沈  
 ノ御製ハ聖作年月ヲ佚スト雖モ、御用邸御滞在ノ御動靜ヲ拜スルニ資スベク、且ツ禁廷ノ様ヲ窺フニ餘アリ。

御逸事

茲ニ御日課トシテノ御運動ヲ、如何ニ重ンゼサセ給ヘ  
ルカヲ拜スル爲、更ニ左ノ謹述ヲ試ミ奉ラントス。即チ  
駐蹕中八月二十七日ハ前日來ノ降雨ノ處次第ニ風力加ハ  
リ、遂ニ暴風雨ト變ジ、後雨止メドモ風勢猶ホ收ラズ。  
電報ヲ以テ皇太后ノ御機嫌ヲ存問アラセラレタル程ナリ  
シカバ、供奉員等私ニ本日ハ御運動御取止メノコトト命  
ヲ持チ奉ルニ、午後三時五十分ヨリ御運動ノ仰アリ、何  
レモ稍々不安裡ニ供奉スト雖モ、風威益々逞暴ヲ極メ、  
危険ヲサへ感ゼラルルニ至リ、遂ニ御取止メノ儀ヲ侍從  
武官若見虎治奏スレバ「然ラバ河岸ノ狀況ヲ見テ參レ」

圖書寮

御聖德

ト仰アリ、大樹ノ傍ニ憩ハセ給ヒテ其ノ復奏ヲ待タセラ  
レシガ、偶々樹枝ノ地上ニ墜ツルヲ憐ハシテ御微笑アリ  
「然ラバ取止ム」旨御沙汰ニテ四時十分還御アラセラレ  
タリ。以テ御日課御殿守ノ一端ヲ拜スベシ。  
更ニ御逸話ヲ謹述スレバ、今回駐蹕中侍從武官長ノ更  
迭アリ。新任武官長陸軍中將内山小二郎著任ノ翌日、即  
チ八月二十八日ニハ、御愛馬近友號ヲ御シテ寂光・羽黒  
等ノ諸瀧ニ御遊行アリシガ、内山武官長ノ扈從スルヲ知  
リ給フヤ、御出門ニ先ダチ「内山ハ元氣ノ馬ヲ好ムカ、  
或ハ温順ナルヲ好ムカ」ト問ハセ給ヒ、其ノ好メルモノ

ヲ當テシメラレタリ。蓋シ著任勿々ノ故ヲ思召シテナリ。  
以テ御慈德ヲ拜シ奉ルベシ。

賜謁者

猶ホ駐蹕中、謁ヲ賜ヘル主ナル者ヲ揚グレバ、守正王・  
鳩彦王・成久王・恒久王ヲ始メ、内閣總理大臣伯爵山本  
權兵衛・第十四師團長陸軍中將山田忠三郎・第十二師團  
長同藤井茂太・教育總監陸軍大將男爵淺田信興・海軍軍  
令部長海軍大將男爵伊集院五郎・參謀總長陸軍大將子爵  
長谷川好道・陸軍大將子爵川村景明・同子爵大島久直・  
同男爵鮫島重雄・遞信大臣元田肇・鐵道院總裁床次竹二  
郎・獨逸國特命全權大使伯爵ふん・れつくす等ナリ。

圖書寮

大正天皇御製集稿本・侍從職日記・侍從武官府日記・  
幸啓錄・官報・大正天皇臨話集・貞愛親王奉讀

是ノ日、奧地利匈牙利國皇帝ふらんつ・よーぜふ第一  
世ノ誕辰ニヨリ祝賀ノ電報ヲ發送アラセラル。爾後、恒  
例タリ。又希臘國皇帝こんすたんたんノ踐祚ヲ祝シ親書  
ヲ送り給ヒテ曰ク、

大日本國皇帝（御名）威德隆盛ナル希臘國皇帝こん  
すたんたん陛下ニ復ス

陛下ノ崇敬愛慕セラレタル父皇じえおるじゆ第一世  
陛下去三月五日（希臘三月十八日）「さろろく」ニ  
於テ兇徒ノ毒手ニ罹ラセラレ終ニ崩御セラレタル旨

ヲ當テシメラレタリ。蓋シ著任勿々ノ故ヲ思召シテナリ。  
以テ御慈德ヲ拜シ奉ルベシ。

賜謁者

猶ホ駐蹕中、謁ヲ賜ヘル主ナル者ヲ掲グレバ、守正王・  
鳩彦王・成久王・恒久王ヲ始メ、内閣總理大臣伯爵山本  
權兵衛・第十四師團長陸軍中將山田忠三郎・第十二師團  
長同藤井茂太・教育總監陸軍大將男爵淺田信興・海軍軍  
令部長海軍大將男爵伊集院五郎・參謀總長陸軍大將子爵  
長谷川好道・陸軍大將子爵川村景明・同子爵大島久直・  
同男爵鮫島重雄・遞信大臣元田肇・鐵道院總裁床次竹二  
郎・獨逸國特命全權大使伯爵ふおん・れつくす等ナリ。

大正天皇御製集稿本・侍從殿日記・侍從武官府日記・  
幸啓錄・官報・大正天皇臨話集・貞愛親王奉讀

是ノ日、奧地利匈牙利國皇帝ふらんつ・よーぜふ第一  
世ノ誕辰ニヨリ祝賀ノ電報ヲ發送アラセラル。爾後、恒  
例タリ。又希臘國皇帝こんすたんたんノ踐祚ヲ祝シ親書  
ヲ送り給ヒテ曰ク、

大日本國皇帝（御名）威德隆盛ナル希臘國皇帝こん  
すたんたん陛下ニ復ス

陛下ノ崇敬愛慕セラレタル父皇じえおるじゆ第一世  
陛下去三月五日（希臘曆三月十八日）「さろろく」ニ  
於テ兇徒ノ毒手ニ罹ラセラレ終ニ崩御セラレタル旨

「サロニツク」

ヲ報セラルル本年四月二十日（希曆五月三日）附親  
 翰ニ接シ痛悼ノ至リニ堪ヘス陛下貴皇室ニ貴國民ノ  
 遭遇シタル此悽愴ノ變事ニ對シ朕カ陛下ト悲愁ヲ共  
 ニスルハ已ニ陛下ノ深察セラルル所ナリ  
 又陛下ハ同時ニ陛下ノ踐祚ヲ報セラレタルヲ以テ朕  
 ハ陛下ノ幸福ト貴國民ノ隆昌トヲ誠實ニ懇禱シ尙ホ  
 朕モ亦幸ニ貴我兩國間ニ現存スル交誼ヲシテ益々鞏  
 固<sup>固</sup>親密ナラシムルニ努ムヘキコトヲ陛下ニ於テ確信  
 セラレンコトヲ冀フ  
 此機ニ際シ朕ハ陛下ニ對シ至誠ノ敬意ト不渝ノ友情

圖書寮

トヲ致ス

大正二年八月十八日

東京宮城ニ於テ

陛下ノ良友

御名

ト。因ニ同國皇帝じえおるじゆ第一世、去ル三月五日さ  
 る<sup>る</sup>くニ於テ兇徒ノ爲メニ弑セラレシガ、繼ニ新帝踐祚  
 ヲ報道スル處アリ。外交庶用  
 錄・官報

二十二日、侍從武官長陸軍中將從三位勳一等功二級男  
 爵中村覺ヲ東京衛戍總督ニ、第十二師團長陸軍中將從三

侍從武官長  
更迭

皇宮

益々

鞏固



ヲ報セラルル本年四月二十日（希曆五月三日）附親  
 翰ニ接シ痛悼ノ至リニ堪ヘス陛下貴皇室ニ貴國民ノ  
 遭遇シタル此悽愴ノ變事ニ對シ朕カ陛下ト悲愁ヲ共  
 ニスルハ已ニ陛下ノ深察セラルル所ナリ  
 又陛下ハ同時ニ陛下ノ踐祚ヲ報セラレタルヲ以テ朕  
 ハ陛下ノ幸福ト貴國民ノ隆昌トヲ誠實ニ懇禱シ尙ホ  
 朕モ亦幸ニ貴我兩國間ニ現存スル交誼ヲシテ益々鞏  
 固親密ナラシムルニ努ムヘキコトヲ陛下ニ於テ確信  
 セラレンコトヲ冀フ  
 此機ニ際シ朕ハ陛下ニ對シ至誠ノ敬意ト不渝ノ友情

圖書寮

皇宮ニ

益々

鞏固

トヲ致ス

大正二年八月十八日

東京宮城ニ於テ

陛下ノ良友

御名

ト。因ニ同國皇帝ジエおるじゆ第一世、去ル三月五日さ  
 るに於テ兇徒ノ爲メニ弑セラレシガ、機ニ新帝踐祚  
 ヲ報道スル處アリ。外交慶弔  
 錄・官報

二十二日、侍從武官長陸軍中將從三位勳一等功二級男  
 爵中村覺ヲ東京衛戍總督ニ、第十二師團長陸軍中將從三

從武官長

皇太子ヲ鹽原御用邸ニ訪ハセラル

位勳二等功二級内山小二郎ヲ侍從武官長ニ、野戰砲兵監陸軍中將正四位勳二等功二級藤井茂太ヲ第十二師團長ニ轉補ス。後日覺ニ例ノ如ク賜物アリ。侍從職日記・侍從武官府日誌・恩賜官報。

三十日、是ヨリ先、皇太子裕仁親王譽ヲ鹽原御用邸ニ避クルヲ以テ、御遊幸ノ思召アリ、是ノ日午前五時四十分田母澤御用邸御出門、日光停車場ヨリ汽車ニ乘御、西那須野停車場ニテ御下車、夫ヨリ御馬車ニテ關谷尋常小學校ヲ經テ十時三分鹽原御用邸ニ著御アラセラル。即チ皇太子ニ謁ヲ賜ヒ、内庭御散步・御入浴等ノ後、御晝餐

圖書寮

アリ。皇太子ヲ始メ渡邊宮内大臣・東宮大夫男爵波多野敬直・内山侍從武官長・東宮武官長男爵山根一貫ニ陪食ヲ賜フ。其ノ間ノ御動靜ハ左ノ聖作ニ詳ナリ。  
巖下流水作清音 庭前青岳可登臨 鹽原光景最堪喜  
東宮相見情轉深 閑步細徑携手好 時同午餐慰兩心  
歸路入山又出野 暮色蒼茫滿雲林  
既ニシテ午後一時四十分同所御出門、往路ニ順ヒテ六時十五分田母澤御用邸ニ還御アラセラル。後、九月四日皇太子鹽原御用邸ヨリ還啓ノ途、田母澤御用邸ニ候ス。即チ謁ヲ賜ヒ、貞愛親王ヲモ召シテ俱ニ午餐ニ陪セシメ給

天長節祝日  
ヲ定ム

報官  
 三十一日、是ヨリ先、天長節ニ就キ自今八月三十一日  
 ニアリテハ天長節祭ノミヲ行ハセラレ、特ニ十月三十一  
 日ヲ天長節祝日ト定メ、宮中ニ於ケル拜賀・宴會ハ同日  
 ニ行ハセラルベキ旨仰アリ、宮中ニ參賀シ又ハ賀表ヲ捧  
 呈スル者ハ十月三十一日之ヲ爲スベキ事ニ定メラレタリ。  
 依リテ是ノ日賢所・皇靈殿・神殿ニ侍從子爵東關基愛ヲ  
 遣シ代拜セシメラル。

ヘリ。猶ホ駐蹕中、守正王・鳩彦王・成久王・恒久王ニ  
 モ亦陪食ヲ賜ヘリ。  
侍從職日記・侍從武官府日誌・大正  
 天皇御製集稿本・幸啓錄・行啓錄・

圖書寮

天長節御内  
宴

田母澤御用邸ニ於テハ供奉員ノ拜賀ヲ受ケサセラレ、  
 貞愛親王ヲ召シ皇后ト俱ニ御内宴ノ御催アリ、宮内大臣  
 伯爵渡邊千秋・侍從武官長内山小二郎・侍從職幹事男爵  
 米田虎雄・東宮大夫男爵波多野敬直・皇后宮大夫事務取  
 扱馬場三郎・皇后宮職御用掛園祥子ニ陪食ヲ賜フ。猶ホ  
 日光町民ハ佳辰ヲ祝シ奉リテ花火ヲ觀覽ニ供セリ。  
侍從  
 職日記  
 記・侍從武官府日誌・典侍日  
 記・幸啓錄・官報・祭記録

天長節祝日  
ヲ定ム

報官  
 三十一日、是ヨリ先、天長節ニ就キ自今八月三十一日  
 ニアリテハ天長節祭ノミヲ行ハセラレ、特ニ十月三十一  
 日ヲ天長節祝日ト定メ、宮中ニ於ケル拜賀・宴會ハ同日  
 ニ行ハセラルベキ旨仰アリ、宮中ニ參賀シ又ハ賀表ヲ捧  
 呈スル者ハ十月三十一日之ヲ爲スベキ事ニ定メラレタリ。  
 依リテ是ノ日賢所・皇靈殿・神殿ニ侍從子爵東園基愛ヲ  
 遣シ代拜セシメラル。

ヘリ。猶ホ駐蹕中、守正王・鳩彦王・成久王・恒久王ニ  
 モ亦陪食ヲ賜ヘリ。  
侍從職日記・侍從武官府日誌・大正  
 天皇御製集稿本・幸啓錄・行啓錄・

天長節御内  
宴

田母澤御用邸ニ於テハ供奉員ノ拜賀ヲ受ケサセラレ、  
 貞愛親王ヲ召シ皇后ト俱ニ御内宴ノ御催アリ、宮内大臣  
 伯爵渡邊千秋・侍從武官長内山小二郎・侍從職幹事男爵  
 米田虎雄・東宮大夫男爵波多野敬直・皇后宮大夫事務取  
 扱馬場三郎・皇后宮職御用掛園祥子ニ陪食ヲ賜フ。猶ホ  
 日光町民ハ佳辰ヲ祝シ奉リテ花火ヲ観覽ニ供セリ。  
侍從  
 職日記  
 記・侍從武官府日誌・典侍日  
 記・幸啓錄・官報・祭記錄

3204 373

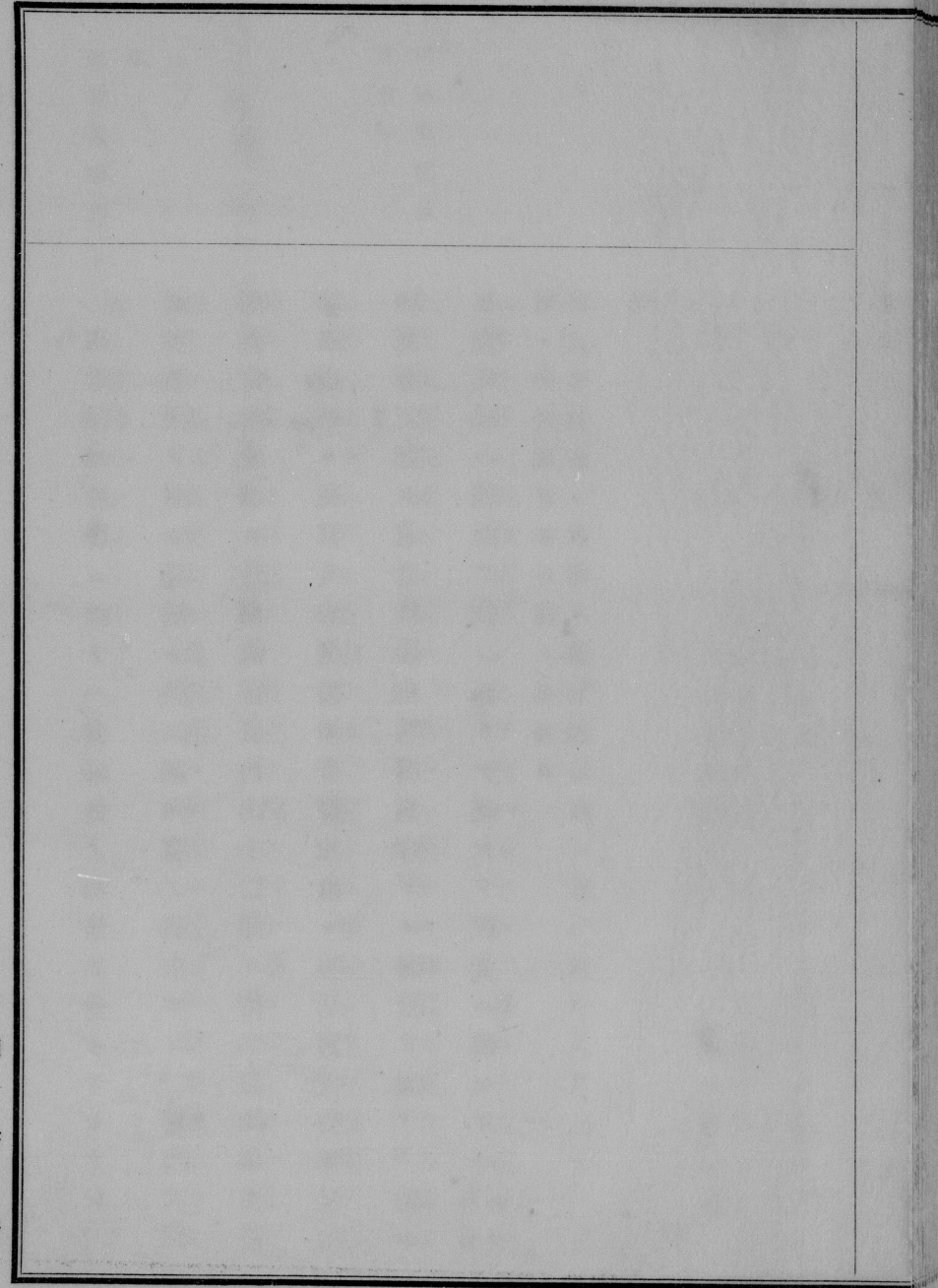
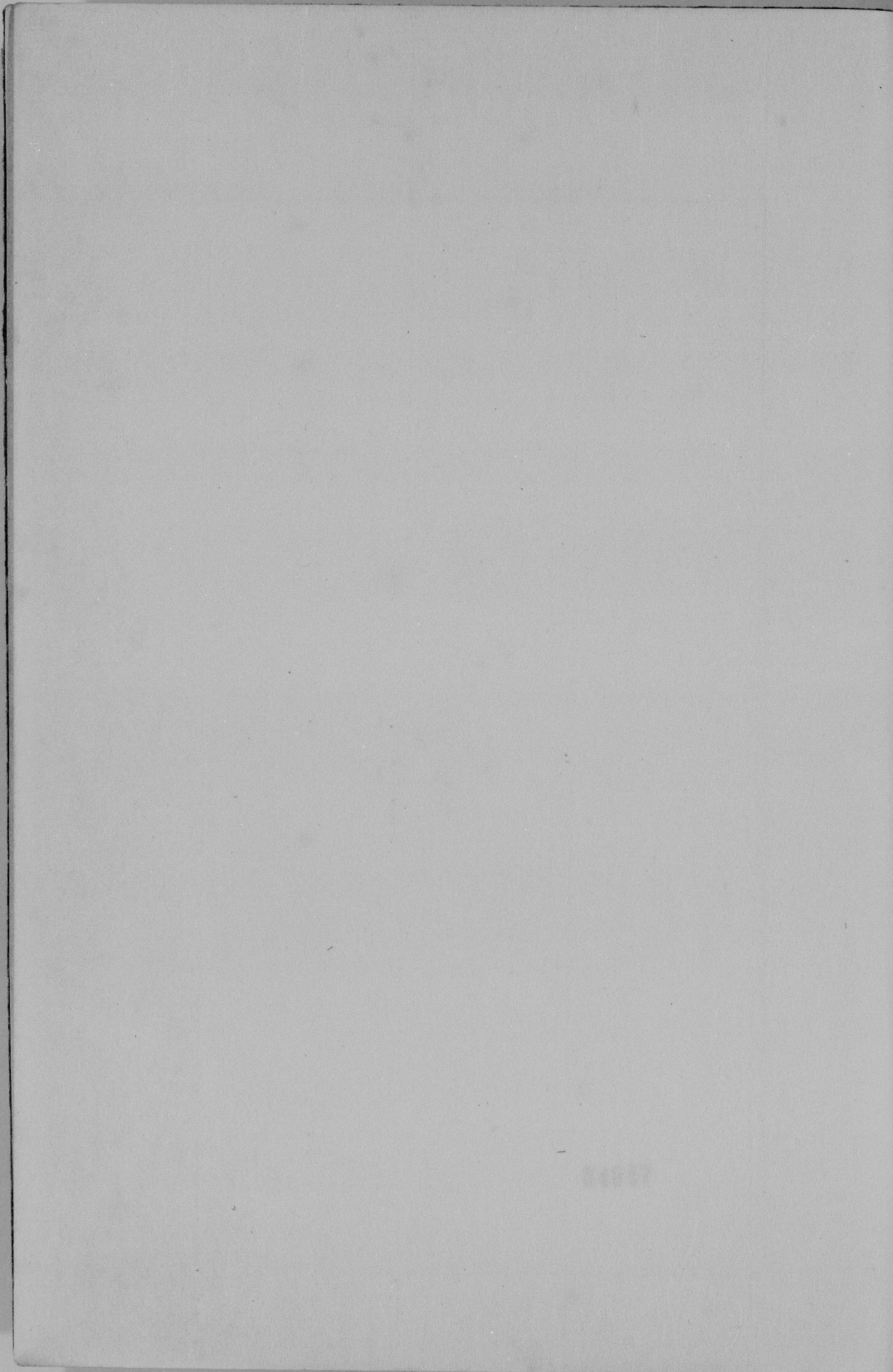


圖  
書  
寮

3204 374

64047

3204 375

